KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

共通語と首都圏方言のスタイルシフトに関する一考察：現代日本漫画を題材に

メタデータ	言語: ja 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2018-04-06 キーワード (Ja): 首都圏方言, 共通語, スタイルシフト, 漫画, 言語生活 キーワード (En): 作成者: 福池, 秋水 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00007791

関西外国語大学 研究論集 第107号（2018年３月）
Journal of Inquiry and Research, No.107（March 2018）

共通語と首都圏方言のスタイルシフトに関する一考察

── 現代日本漫画を題材に ──

福　池　秋　水

要　旨

本研究は、共通語と首都圏方言のスタイルシフトについて、漫画を題材として観察したものである。

首都圏方言とは、首都圏に住む人が使用する方言を指す。本研究では、漫画『海街diary』から一組の男女の会話場面を抜き出し、共通語と首都圏方言とのスタイルシフトを観察した。

その結果、首都圏方言のくだけた文体は、話者の心内文や「相手に聞かせるための独り言」に見られ、人間関係の距離が縮まると使用されるようになる一方、意識的に距離を縮める場合にも用いられることが観察された。また、一まとまりの談話でも、話題によって共通語と首都圏方言を行き来するスタイルシフトが見られた。このような言語使用は、作者がその登場人物の状況や人物設定、ストーリー展開にふさわしいと考えて創作したものであり、現実の話し言葉と完全に一致するものではないが、首都圏方言の実態をある程度反映したものであると考えられる。

キーワード：首都圏方言、共通語、スタイルシフト、漫画、言語生活

１．はじめに

本研究は、共通語と首都圏方言の使い分けの要因を探るため、漫画を題材として分析を行ったものである。

日本人は、地域方言と共通語を多層に使い分ける言語生活を送っている。首都圏もその例外ではなく、そこに住む人々が話す方言は首都圏方言と呼ばれる。しかし、首都圏に住む人々は、自分が共通語を話しているという意識があり、自分たちが方言と共通語を使い分けていることには無自覚であると言われている。

首都圏方言と共通語の使い分けは話し言葉のスピーチレベルにも関わる問題である。しかし、日本語教育の話し言葉、特に初級の日本語教育で教授される話し言葉は共通語または丁寧な首都圏方言がベースになっているが、首都圏方言と共通語の使い分けについて詳しく触れられることはなく、「丁寧な話し言葉」と「くだけた話し言葉」として簡単に紹介される程度である。また、首都圏方言のくだけた文体から共通語に近い丁寧な文体まで、話し言葉には多層なスタ

イルのレベルがあり、それが細かく使い分けられていることについては、中級以降でも紹介されないことがある。

本研究は、日本語母語話者にも非母語話者にも気づかれにくい共通語と首都圏方言のスタイルシフトに関する研究を行うため、漫画にあらわれる実例を観察したものである。

2．先行研究と用語のまとめ

2.1　共通語と首都圏方言

2.1.1　共通語の成り立ち

事典類、概説書類によれば、日本語における共通語とは、異なる言語変種（主に地域方言）を超えて通じ合える言葉を指す。日本全国の共通語である「全国共通語」と、ある地域での共通語を指す「地方共通語」があるが、本稿で「共通語」という場合は全国共通語を指す。全国共通語と標準語には似た部分が多く、宮地（2010）や佐藤（1995）が指摘するように、「標準語」の言い換えとして「共通語」が用いられる側面もある。しかし、柴田（1993）の定義にのっとり厳密にいえば、標準語とは国家が規範として定めている言葉を指し、現代の日本には存在しないものである。ただし、共通語と標準語の成立過程には重なる部分も大きい。以下にまとめる。

真田（1991）によると、江戸時代後期から明治初期にかけて、上層階級の江戸語が全国共通語としての地位を占め始め、やがて京都語に対しても優位に立ったことが、現在の共通語の原点となる。このころ、上層階級の江戸語は日本の共通語でもあると同時に標準語としての地位も獲得していたという。その後、国語・国字の近代化をはかるための国家施策として設置された国語調査委員会が中心となって「東京の教育ある人々の口語を標準とし、他の地方の口語でも全国で広く用いられているものはある程度くみ取」るという方針にのっとり、1916年に『口語法』（1916）を刊行した。これが学校文法に強い影響を及ぼしたことによって、標準語政策・標準語教育の方向性が定められた。政府による標準語政策やラジオ放送の影響で標準語は全国に広まったという。

戦後は、国家として定められたという意味での「標準語」は存在しなくなり、かわって「共通語」という語が主に国語教育の現場で用いられるようになっている。

2.1.2　共通語の定義

前項で述べたように、標準語と共通語の違いの一つは、標準語の「国家によって制定されたものである」という定義にある。それでは、共通語の定義とは何であろうか。

辞典類、概説書類を参照すると、共通語については標準語のような統一された定義がないことがわかる。前項に述べたように、大きくいえば「方言差を超えて通じ合えることば」「方言差がある話者どうしがコミュニケーションをとる場面で、お互い通じ合うことを使用目的とす

る」という見方でほぼ一致している。ただし、「方言」の範囲については、地域方言の他に、「性差・年齢差・職業差等の社会差も超えた」言語変種であるという説もある（尾崎 2014）。このように考えると、いわゆる女性語や若者ことばのようなものは共通語に含まれないことになり、話し言葉の大部分は共通語とはいえなくなる。

共通語は、標準語との対比においては規範性が低いとされている。例えば、加藤（2010）は、共通語は必ずしも規範性を持たず、実用的・現実的なものであるとしている。しかし、多くの文献では、以下のような表現を用いて、共通語にも一定の規範が求められるとしている。

・ゆるい規範（柴田 1993）

・「下品ではない表現」というある種の規範性が、「共通語」にも暗黙のうちに求められている（尾崎 2014）

・教科書用語やアナウンサー用語はこれを志向している（古瀬 1994）

以上に見たように、共通語の成り立ちやそれが示す範囲には諸説がある。本稿では、「共通語」は地域方言の要素が取り除かれ、全国で使えることばであって、ある程度のあらたまりをもつことばと捉えることにしたい。

2.2　首都圏方言

2.2.1　首都圏方言とは

首都圏方言とは、首都圏とされる地域の話者が用いる方言である。

首都圏方言が話される地域について、久野（2014 a）では、「首都圏に通勤通学する人々の意識の上での首都圏」「通勤通学に可能な地域で本人が「自分は標準語を話す」と思っている地域も調査対象に含まれる」（p.21）としており、具体的な地理的範囲ではなく話し手の意識を重視している。

「首都圏」を地理的に定義づける場合、行政用語としてはいわゆる「１都７県」（東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・群馬・山梨）を指すことが多い。一方、総務省の定義による「東京大都市圏（首都圏）」は東京および周辺の政令指定都市への「1.5%通勤通学圏」に当たる神奈川県、千葉県、埼玉県と東京都（島嶼部を除く）を合わせた地域を指している。田中（2010）ではこの「東京大都市圏」を日常的な交流の範囲と見なしている。そして、昼夜間人口比率が東京と逆転することから、隣接県から東京都への通勤・通学者の多さが、行政区分を超えた「東京」意識が生まれる下地になっていると指摘している。また、三井（2014）も周辺都市から東京都区部への通勤・通学人口を検討した上で、同様に東京・神奈川・千葉・埼玉を首都圏方言の主な使用地域とし、その周辺地域まで含めた研究を行うとしている。鑓水（2014）では首都圏の言語分布を３重円で示すモデルを提示している。このモデルによれば、「首都圏」は山の手地域と多摩東部地域からなる「標準語地域」とそれを取り囲む東京下町・多摩西部・神奈川・千葉・埼玉を指す「首都圏言語地域」、さらにその周辺地域となる茨城・栃木・群馬・山梨の「関

東方言地域」に分類される。

以上の先行研究を踏まえ、東京・神奈川・千葉・埼玉に住む人々は首都圏方言の話者の特徴を持つ人が多いと考え、本研究でも、この地域に住む話者が話すことばの体系を首都圏方言と呼ぶ。

2.2.2　首都圏方言の特徴

首都圏方言は、他の方言と比較すると、代々その土地に住む生え抜きの話者が少ないと考えられている。久野（2014a、2014b）では、首都圏方言の話し手像として、他の地方から東京への移住者の２世、３世で、東京都内に通勤通学できる範囲に住んでおり、１世が習い覚えた共通語を母方言とし、その土地の方言を継承していない人々としている。この背景には、首都圏の人口の増減が激しいことがある。東京は明治維新、関東大震災、東京大空襲等の歴史的な背景から人口の増減が激しい都市である。また、政治・経済・文化の中心地である首都東京およびその周辺へは、地方からの移住者も多い。鑓水（2014）は、戦後の首都圏の人口増加について、初めは社会増加（労働力としての人口の流入：移住１世）が、1960年代後半からは自然増加（移住１世の子：移住２世）が増加していることを指摘し、こうした移住１世、２世は新興住宅地に集住することからその土地の伝統的方言を継承しにくいと考察している。

首都圏方言のもう一つの特徴は、それが一般的に共通語（標準語）と意識されることが多い点である。首都圏方言の話者も、自分は共通語（標準語）を話していると自覚していることが多い。また、テレビドラマで話されているような話し方は、くだけた話し言葉が多く、共通語というより首都圏方言と呼ぶべきものであるが、共通語（標準語）と意識している視聴者も多いだろう。

首都圏方言と共通語は、どちらも東京語をベースにしている言語変種であるため、その言語形式は類似している。しかし、共通語が書き言葉に近く、改まった場面でのみ用いられるのに対して、首都圏方言は話し言葉であり、話者の言語生活のすべてをまかなう生活言語であるという点が異なる。首都圏方言は改まった場面で用いる丁寧な文体から親しい人と話す場面で用いるくだけた文体まで、状況に応じたさまざまなスタイルが使い分けられており、そのうち、公的な場面や改まった場面で用いられる首都圏方言のスタイルは共通語と類似した形式になる。

久野（2016a）では、首都圏方言は南関東方言の特徴を基に共通語化した生活語であるとし、共通語には見られない特徴として「してない」を「してねー」、「まだ居るのか」を「まだ居んのか」のような訛音の例を挙げている。

３．研究目的

首都圏方言（特にくだけた文体のもの）と共通語は、私的な場面で用いるくだけた言葉と公

的な部分で用いるあらたまった言葉という側面を持ち、これらの使い分けを誤ると、適切な文体の話し言葉を使えず、コミュニケーションに障害をもたらす可能性もある。

久野（2014b）は、首都圏方言と共通語の使い分けについて、公的な場面では丁寧な文体で話すため、両者の差が小さいが、私的な場面、気の置けない相手と話す場面では共通語ではなく首都圏方言が使用されると指摘している。また、漫画に見られる例として、職場や学校の授業場面などでは共通語が選択されやすいとしている。

そこで、本研究の目的は、このような首都圏方言と共通語の使い分けについて、人間関係の差や変化等の要因を詳細に観察することである。

4．研究方法

4.1　研究の題材

首都圏方言を研究するにあたり、研究対象としてはまず自然談話が挙げられる。しかし、自然談話では人間関係の変化のような長期間の観察をともなう研究を行うことは難しいため、本研究ではフィクションのほうが適している。久野（2016a）等は、首都圏方言の使われ方を観察するために漫画を題材としており、その理由として、話し言葉を中心として物語が展開していること、できるだけ音声言語に近づけた表記の工夫がなされていること、登場人物の思考や感情のようなものも文字で書き表されていること、登場人物の細かい設定が示され、その設定にふさわしいと作者が考える言葉遣いが台詞として創作されていることを挙げている。これを参考に、本研究でも漫画を題材として採用した。

具体的な作品としては、『海街diary』（吉田秋生、小学館、2007～）を題材とした。この作品を選定した理由は、作者が東京出身者であること、舞台が現代の東京または首都圏であること、多様な職業の登場人物が登場することである。

作品の舞台は鎌倉であり、主要登場人物である４人の姉妹を中心に、多様な人間関係が存在する。本研究では、そのうち、「香田幸」と「井上泰之」の２人の会話の中で、どのように首都圏方言と共通語を使い分けているかを観察する。それぞれの人物の人物像と関係性は以下の通りである。

香田幸（こうだ さち）…女性。29歳[i]。看護師。鎌倉に生まれ育った。母親も鎌倉出身であるが、思春期に両親が相次いで家を離れ、祖母と同居していた。

井上泰之（いのうえ やすゆき）…男性。年齢不明（作画より、幸と同年代と思われる。[ii]）。幸と同じ病院に勤める理学療法士。プライベートではジュニアサッカーチームの監督を務めている。

幸は中学生の異母妹を引き取り、保護者の役割を果たしている。その妹が所属するサッカーチームの監督が泰之である。したがって、幸と泰之は「同じ病院に勤める同僚」と「サッカー

チームの監督と保護者」の二重の関係性を持っている。同僚であっても実際に業務を合同で行う場面はなく、話題の多くはそれぞれの業務や生い立ちに関する個人的な考えやエピソードか、幸の妹が高校のサッカー推薦を受験するかどうかという進路選択についての相談、または日常的な雑談である。

本作品は、４人の姉妹それぞれのエピソードを織り交ぜてストーリーが進む形式になっているため、幸と泰之のやりとりのエピソードは飛び飛びにあらわれる。２人の初対面から交際が成立するまで（作中では約１年間）の場面を抜き出したものが表１である。

表１　幸と泰之のやりとりが描かれた場面の一覧（７巻p.74まで）

場面番号	巻	ページ	時期	場面	ストーリー展開
1	2	142−145	初夏	病院	初対面。職務で偶然出会い、妹の進路についても話す。
2	3	84−85	夏	病院	泰之の参加する院内講習会に幸も飛び入り参加する。
3	3	97−100	場面２と同日	病院	院内講習会の後、花火を見る。
4	3	159−160	夏	病院	院内講習会に参加する。
5	3	163−171	場面4と同日	病院→バー	講習会の後、急に仕事が入った幸の荷物を泰之が届ける。帰りに酒を飲みながら互いの仕事について話す。
6	4	20	秋	祭り会場	幸が恋人と歩いている時に、泰之に会う。会話内容の描写なし。
7	4	132−133	クリスマス	病院前→バー	病院前で偶然会い、バーに寄る。
8	4	149−151	冬（年明け）	病院内食堂	食堂で相席になり、夕飯の約束をする。
9	4	166−174	場面８と同日	中華食堂	食事の後、メールアドレスを交換する。
10	5	172−175	春	病院食堂	携帯メールのやりとり。泰之は幸を食事に誘うが、幸は乳がんの疑いの検査結果が気になり、気乗りしない。
11	5	186−189	春	海岸	幸が泰之を呼び出す。泰之は幸の元気のなさに気付く。
12	6	58−63	初夏	食堂～海岸	昼食の後、海岸を散歩する。
13	6	15−146	梅雨	病院食堂	携帯メールのやりとり。妹の進路についての話題だが、敬語のやりとりであることに幸は不満を感じる。
14	7	17−19	梅雨	病院食堂	食堂で相席になる。食事の話題。妹の進路についての話題。
15	7	62−74	梅雨明け頃	海岸	昼食を食べてから散歩する。妹の進路や幸の検診の話題。泰之は恋を告白し、幸は受け入れる。

4.2　研究方法

4.2.1　作品内発話のデータ化

漫画では、「吹き出し」と呼ばれる独特の表現を用いて発話を表現する。通常の吹き出しは実際に発声する発話（まれに、メールなどの文面やオノマトペを示すこともある）を示し、雲形吹き出しと呼ばれる形は心内文を示す。吹き出しのないテキストには、活字で書かれるものと手書きで書かれるものがある。活字で書かれたものは、小説でいえば地の文にあたるナレーションやモノローグを示すことが多い。手書きで書かれたものも同じ機能を持つことがあるが、その他には作者から読者へ語りかけなどにも用いられる。

本研究では、漫画内のやりとりのうち、文字の部分を表に写し、データ化した。データ化にあたっては、まず、漫画内に書かれている文字を表にまとめた。吹き出しのあるものはひとつの吹き出しを１行のデータとし、吹き出しのないものは見た目や意味のまとまりで判断した。それぞれのデータには、表示（吹き出し、雲形吹き出し、吹き出し外印刷文字、吹き出し外手書き文字）、発話の種類（相手への語りかけ、独白、あいづち、心内文、ナレーション等）、発話者、発話の相手、場面、話題などを入力した。

4.2.2　首都圏方言の特徴

登場人物の発話または心内文であるものについて、首都圏方言の特徴が見られるかどうかを確認した。首都圏方言の特徴とは、2.2.1に示した、南関東方言の特徴と言われている連母音の融合、ラ行の撥音便化、縮約表現（「シテシマウ→シチャウ」、「シテイル→シテル」等）のほか、親しい間柄で用いられるくだけた話し言葉の特徴である助詞の省略や終助詞「わ」「よ」等の添加、その他くだけた文体の表現と考えられる文体の使用、常体の使用を指す。表２～７において、これらの首都圏方言の特徴的な表現には網掛けを付した。助詞が省略されていると思われる部分については、省略された助詞の前の文字に網掛けを付している。なお、漫画で多用されるカタカナによる表記は、何らかの音声的な特徴の表現だと思われるが、何を表現しているのかがはっきりしないため、本研究では取り上げないこととする。

５．結果と考察

5.1　心内文とやりとり発話

心内文の発話は、幸が圧倒的に多かった。これは、物語の中心人物である幸の視点から物語が描写されているためであると考えられる。幸も泰之も、心内文の中では首都圏方言の特徴的な表現を多用している場合でも、実際に発声する発話では比較的共通語に近い表現を選択する。表２、３にそれぞれの例を示す。最もプライベートな発話である心内文では首都圏方言を用いていても、相手に聞こえる発話としては首都圏方言の使用が抑えられていることがわかる。

表２　心内文に現れる首都圏方言の例（場面２より抜粋）

発話者	発話	表現形態	発話の種類	発話の相手
幸	さてと	雲形吹き出し	心内文	-
幸	急にヒマになっちゃったな	雲形吹き出し	心内文	-
幸	どこへ行ったって花火大会で街は混んでるだろうし	雲形吹き出し	心内文	-
幸、泰之	あ	吹き出し		泰之、幸
泰之	あっ　こんにちは	吹き出し		泰之
幸	あ　どうも	吹き出し		泰之
幸	まずーい	吹き出し外活字	心内文	-
幸	すずと進学の話ぜんぜんしてないし	吹き出し外活字	心内文	-
幸	あ　あの まだ すずと話してないんです 進路のこと	吹き出し		泰之
泰之	あ　はい まだ時間ありますからあせらなくても大丈夫ですよ	吹き出し		幸
幸	…アロマテラピー お好きなんですか？	吹き出し		泰之
幸	へー　変わってる　男の人で	雲形吹き出し	心内文	-
泰之	え？あっ　コレですか!?	吹き出し		幸
泰之	図書室で借りてきたんです 院内講習会がこれからあるんで	吹き出し		幸
幸	院内講習…ですか？	吹き出し		泰之
幸	そんなのやってたんだ	雲形吹き出し	心内文	-

※網掛け部は首都圏方言の特徴的な表現を示す。助詞の省略については、その直前の一文字を網掛けにしている。（以下の表も同様）

表３　心内文に現れる首都圏方言の例（場面10より抜粋）

（食事の後、泰之は幸を自宅まで送り、家の前で別れの挨拶をしている。）

発話者	発話	表現形態	発話の種類	発話の相手
幸	どうもありがとうございました わざわざ送っていただいて	吹き出し		泰之
泰之	いえ	吹き出し		幸
幸	おやすみなさい	吹き出し		泰之
泰之	香田さん	吹き出し		幸
泰之	…あの	吹き出し		幸
泰之	メ　メルアドとか 教えていただけませんか？	吹き出し		幸
幸	あ　ハイ じゃ　送ります。	吹き出し		泰之

泰之	えっ!?	吹き出し		幸
幸	あ　あっ	吹き出し		泰之
幸	あっ　ハイ！ どうぞ！	吹き出し		泰之
（幸が自宅に入ってから）				
泰之	あ～～～しっかりしろよオレー	雲形吹き出し	心内文	幸
泰之	うれしいけど悲しい～～～	雲形吹き出し	心内文	幸
泰之	だってあんなにあっさり…	吹き出し内手書き	心内文	幸
幸	メルアド教えちゃったよ	雲形吹き出し	心内文	泰之
幸	なんかつい流れで	雲形吹き出し	心内文	泰之
幸	ま　いいやね　メルアドぐらい	雲形吹き出し	心内文	泰之
幸	てか　なに　いいわけしてンの　あたし	雲形吹き出し	心内文	泰之

5.2　スタイルシフトの例

ここでは、一まとまりの談話の中でスタイルシフトが起こる例を挙げ、その要因を考察する。

5.2.1　独り言のかたちをとるスタイルシフト

表４に示した会話の中で、泰之の「また盛り上がってきたな」と中略後の幸の「あーほんと　見える！」は、幸と泰之の会話の中で初めてあらわれた常体の発話である。この発話は、どちらも相手に対する積極的な働きかけではなく、周囲の状況に対する感想であり、独り言の要素も持っている。そのため、出会って間もない相手の前でも使用できると考えられる。一方、会話の相手がこれらの発話に反応して同じ話題を広げたり（幸『すずたち今日船の上で花火見るんだって言ってました』）、同意を伝えたり（泰之『ね!?』）していることから、純粋な独り言でもなく、いわば「相手に聞かせるための独り言」とでもいうべきものである。

Geyer（2008）は、敬体がベースで行われる会話に差し挟まれる常体の発話について分析し、その機能の一つに、連帯感を示すことがあると述べているが、本研究で見られた幸や泰之の「相手に聞かせる独り言」発話にも、常体や首都圏方言の使用によって相手との距離を縮める機能があると考えられる。

表４　独り言の形をとって現れる首都圏方言の例（場面３より抜粋）

（表２に示した講習会の後の会話である。）

発話者	発話	表現形態	発話の種類	発話の相手
幸	とても勉強になりました	吹き出し		泰之
幸	思ってたよりずっと医療に近いんですね アロマテラピーって	吹き出し		泰之
泰之	ですよねー　ぼくもそう思いました	吹き出し		幸
泰之	おっ	吹き出し		幸？

泰之	なんかまた盛りあがってきたな	吹き出し		幸？
幸	すずたち今日船の上で花火見るんだって言ってました	吹き出し		泰之
幸	そうなんですよ　うちのチームの子の保護者に腰越の漁師さんがいて　毎年チームの子を乗せて花火を見せてくださるんです	吹き出し		
幸	ここからだと山がじゃまで見えないんですよねえ 音はよく聞こえるんだけど	吹き出し		泰之
（中略）　幸と泰之は花火を見物するために病院の屋上に上る。				
幸	あ！	吹き出し		泰之？
幸	あーほんと　見える！	吹き出し		泰之？
泰之	ね！？	吹き出し		幸
幸	でもちっちゃー	雲形吹き出し	心内文	泰之

5.2.2　関係性の変化によると思われるスタイルシフト

ここでは、幸と泰之の関係が大きく変わった会話の場面を取り上げ、スタイルシフトを観察する。

表４では割愛しているが、この前にも会話の描写があり、幸と泰之は幸の妹の進路について話していた。やりとりでは、冷静に会話が進んでいる間は首都圏方言の特徴的な表現は少ない。しかし、幸が自らに癌の疑いがあったことを知った後、泰之の発話にスタイルシフトが起こり、呼応するように幸の発話も変化する。泰之の「ダメだ放っといちゃ!!」「すぐ検査しなきゃ！」、それに対する幸の「もう行ったから!!」「検査もしたの!!」は、独り言ではなく相手への直接的な働きかけとしては、お互いに初めての常体の発話である。幸はこの発話から一貫して常体で話すようになる。

表５　関係性の変化により現れたと思われるスタイルシフトの例（場面15より抜粋）

発話者	発話	表現形態	発話の種類	発話の相手
幸	私　胸にしこりを見つけたんです	吹き出し		泰之
幸	そのとたん私は「患者」になって	吹き出し		泰之
幸	健康な人たちとは別の世界の住人になってしまった気がしたんです	吹き出し		泰之
幸	しょせんひとごとだったんだなって思いました	吹き出し		泰之
幸	その時ある人に言われたんです	吹き出し		泰之
幸	ひとごとでもいいんじゃないか	吹き出し	他者発話の引用	泰之
幸	看病する者が病人といっしょにへタレてしまっては困るのは病人なんだからって	吹き出し	他者発話の引用	泰之

幸	それで気持ちがスッと楽になって…	吹き出し		泰之
泰之	いつ!?	吹き出し		幸
幸	え？	吹き出し		泰之
泰之	しこり　いつ見つけたんですかっ！	吹き出し		幸
幸	コラ大声で	吹き出し外手書き		泰之
幸	え！？ あっ　いや…	雲形吹き出し	心内文	泰之
泰之	ダメだ　放っといちゃ!!	吹き出し		幸
幸	あっ だから…	吹き出し		泰之
泰之	すぐ検査しなきゃ	吹き出し		幸
泰之	乳腺外来今すぐ探すからとにかく予約入れて　すぐ行ってください！	吹き出し		幸
泰之	軽くパニック	吹き出し外手書き		
幸	もう行ったから!!	吹き出し		泰之
幸	検査もしたの!!	吹き出し		泰之

表５の会話の後、泰之は幸に好意を抱いていることを告げる。その後の会話が表６である。幸は泰之の告白に対し明確な返答はせず、「敬語」をやめるように言う。泰之が敬体で話すことは、幸にとって２人の関係を縮めるための障害になるのである[iii]。泰之は言われたとおりに常体で話す努力をし、終助詞「～ぜ」など首都圏方言の特徴的な表現も用い始める。首都圏方言へのスタイルシフトが話者どうしの明示的な合意のもとに行われた例である。

表６　明示的に行われたスタイルシフトの例（場面15より抜粋）

発話者	発話	表現形態	発話の種類	発話の相手
幸	だったら敬語はやめてよ	吹き出し		泰之
幸	あなたずっと敬語じゃない だから私いつまでも保護者のままなんだわ	吹き出し		泰之
泰之	ごめん…	吹き出し		泰之
幸	べ　別にあやまんなくたっていいけど	吹き出し		泰之
泰之	もう敬語は使わないから！	吹き出し		泰之
幸	ン…	吹き出し		泰之
泰之	コーヒーでも飲みに行きま…	吹き出し		幸
泰之	行かないか!?	吹き出し		
幸	ぷ	吹き出し	オノマトペ	泰之
泰之	ぷって！	吹き出し		幸
泰之	ヒドイな！ け　けっこーキンチョーしたんだぜ!?	吹き出し		幸

幸	いいわね	吹き出し		泰之
幸	ちょうどコーヒー飲みたかったし	吹き出し		泰之

5.2.3　話題による共通語と首都圏方言の使い分けの例

前項では、関係性が変化したことによるスタイルシフトについて紹介した。この他に、同じ場面であっても話題によってスタイルシフトが起こるケースがある。

表７の会話では、左の「話題」の列にまとめたように、話題が「食べ物」と「妹の進路」の間を行き来する。日常生活に関する雑談ともいえる「食べ物」の話題の間は、特に泰之の発話には「うめー」のような連母音の融合や「～ッス」のような俗語的な表現が見られる。しかし、話題が幸の妹の進路に移ると、そのような表現はなりをひそめる。妹の進路の問題は１年前から幸も迷っている重要な問題であるためである。

また、「妹の進路１」の話題から「食べ物２」の話題転換の際に泰之が発した「ちょっとエラそーなこと言っちゃいましたけど」という発話には、話題転換のマーカーや、真剣な話題で生まれた緊張感や距離感の緩和を担う機能があったと考えられる。

表７　話題によるスタイルシフトの例心内文に現れる首都圏方言の例（場面14より抜粋）

話題	発話者	発話	表現形態	発話の種類	発話の相手
食べ物1	幸	あそこのコロッケとてもおいしいんです	吹き出し		
	幸	最近コロッケパンも始めて　それがまたおいしいんですよ	吹き出し		
	幸	へえー	吹き出し		
	幸	コロッケは知らなかったなー	吹き出し		
	幸	キャベツがたっぷりで自家製ソースがちょっと和風な感じで	吹き出し		
	泰之	えーっ　うまそー	吹き出し		幸
	幸	ま　そーゆー流れだわな	吹き出し外手書き	心内文	
	幸	今度食べてみます？	吹き出し		
	泰之	ハイぜひ！　海で食べたらサイコーっすね！！	吹き出し		幸
	幸	わかりやすくてよろしい	吹き出し外手書き	心内文	泰之
妹の進路1	泰之	すずちゃん　まだ迷ってます？	吹き出し		幸
	幸	あ	吹き出し		
	幸	そうですよね　そろそろお返事しないといけないんですよね	吹き出し		泰之
	泰之	ええまあ	吹き出し		幸
	泰之	でもまだ大丈夫ですから	吹き出し		幸
	泰之	ムリありません	吹き出し		幸

妹の進路1	泰之	彼女はひとりでこの街にやってきてようやく環境になじんできたのに	吹き出し		幸
	泰之	また別の場所へ行くというのは…とても勇気がいると思います	吹き出し		幸
	泰之	でもぼくはできればチャレンジしてもらいたいなーと思ってます	吹き出し		幸
	泰之	努力すれば必ずむくわれるってほど物事は単純じゃないですけど	吹き出し		幸
	泰之	努力しなければ絶対むくわれないことってのもありますから	吹き出し		幸
	泰之	それはけっして無駄にはならないと思うんですよね	吹き出し		幸
	泰之	ちょ　ちょっとエラそーなこと言っちゃいましたけど	吹き出し		幸
食べ物2	泰之	おっ	吹き出し		幸
	泰之	このコロッケうめ！最近の冷凍モノはバカになんないっスねー！	吹き出し		幸
	幸	それ食堂のおばさんたちの手作りです　さっき自慢してました	吹き出し		泰之
妹の進路2	幸	もう少しだけ待ってやっていただけますか	吹き出し		泰之
	幸	あの子きっと自分で答えを出すと思います	吹き出し		泰之
	幸	あと少しだけ時間をいただけませんか	吹き出し		泰之
	泰之	もちろんです	吹き出し		幸

5.3　考察

以上に見たように、漫画の中では登場人物たちが首都圏方言の特徴的な表現を随所で使用している。一まとまりの談話の中でも、首都圏方言の特徴的な表現が多用される文体から共通語に近い丁寧な文体まで、話題や関係性の変化に応じてスタイルシフトが頻繁に起きている。

このような言語使用は漫画というフィクションの中で創作されたものであり、実際の話し言葉とまったく同一のものと考えることはできない。漫画を始めとしたフィクション作品でキャラクターが話す言葉は「役割語」と呼ばれ、現実の社会では用いられないような話し方が用いられることもあり、必ずしも実際の話し言葉と一致しないと言われている（金水2003）。

しかし、その一方で、定延（2011）にあるように、「キャラクタ」はフィクションの登場人物にのみ適用される概念ではなく、現実に生きる人々も意識的、無意識的に「キャラクタ」を考慮して話し方を決めている。ここではフィクションの「役割語」もその材料になっていると考えられる。フィクションの「役割語」は、社会共同体のステレオタイプから作り上げられたものであると同時に、そのステレオタイプを強化することにも寄与している。こう考えると、フィクションの世界の「役割語」と現実社会の話し言葉は隔絶されたものではないといえる。

本研究で取り上げたようなスタイルシフトの現象は偶発的に描写されたものではなく、作者が、ストーリーやキャラクター造形を計算して作り上げた言語使用である。それは、首都圏方言の話者であると推定される作者が、首都圏方言の話し手であるそれぞれの登場人物がその状況で発するのにふさわしいと考えた表現であることは確かである。したがって、首都圏方言の実態をある程度は反映していると考える。

6．まとめと今後の課題

以上、本研究では、共通語と首都圏方言のスタイルシフトについて観察し、話題や関係性の変化に応じてスタイルシフトが起きていることを確認した。

今後の課題としては、まずデータの量を増やすことが挙げられる。今回は特定の作品の一組の登場人物のみを扱ったが、今後は同作品の他のキャラクターの談話の分析や、他の作者の作品の分析も行いたい。

本研究では「共通語」と「首都圏方言」の二つのレベルでのスタイルシフトを観察した。しかし、実際の言語生活では、改まった場面での文体、公的な場面ではあるが私的な話題について話しているときのややくだけた文体など、多層なレベルの表現を使い分けるのが日本語の特徴であると考えているため、そのことを示すような研究デザインを開発する必要があると考えている。関連して、データの分析において、「首都圏方言の特徴的な表現」にどこまでの表現を含めるかも今後の課題である。共通語が使われるべき「改まった場面」で用いない表現をすべて首都圏方言として扱うのか、「共通語ではないが首都圏方言の特徴的な表現とまでは言えない」という中間的なレベルを設けておくかをはっきりさせる必要があると考えている。

参考文献

尾崎喜光（2014）「標準語」「共通語」『日本語大事典』佐藤武義・前田富祺編　朝倉書店

加藤和夫（1995）「第８章 方言」『概説日本語学』鈴木一彦、林巨樹[監修]、飯田晴巳、中山緑朗［編集］明治書院

加藤正信（2007）「共通語」『日本語学研究辞典』飛田良文（ほか）編　明治書院

加藤正信（2010）「方言と共通語」『日本語と日本語教育のための日本語学入門』宮地裕編　明治書院

金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語　役割語の謎』岩波書店

金水敏[編]（2014）『〈役割語〉小辞典』研究社

古瀬順一（1994）「Ⅳ　方言」『国語学概説』四版 春日正三（ほか）双文社

久野マリ子（2014a）「首都圏方言の形成と共通語化」『国立国語研究所共同研究報告13－02　首都圏の言語の実態と動向に関する研究 成果報告書』三井はるみ編 国立国語研究所

久野マリ子（2014b）「首都圏方言の拡散と共通語化―はじめにかえて―」『首都圏方言の研究』第５号 國學院大學大学院文学研究科久野研究室

久野マリ子（2016）「首都圏方言について考える」『国語研究』第79号

久野マリ子（2016b）「首都圏方言と共通語―首都圏方言の研究６・７号刊行の辞にかえて―」『首都圏方言の研究』第６・７号　國學院大學大学院文学研究科久野研究室

定延利之（2011）『日本語社会　のぞきキャラくり　顔つき・カラダつき・ことばつき』三省堂

佐藤亮一（1995）「第八章 共通語・方言」『概説 日本語 』北原保雄編 朝倉書店

真田信治（1991）『標準語はいかに成立したか』創拓社

柴田武（1993）「共通語」『第五版 国語学大辞典』国語学会 東京堂出版

田中章夫（1991）『≪ことばの小径≫標準語』誠文堂

田中ゆかり（2010）『首都圏方言における言語動態の研究』笠間書院

成田修一（2000）「第６章」『概説　日本語学・日本語教育』清水義昭編 おうふう

野田尚史（2005）「コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図」『コミュニケーションのための日本語教育文法』野田尚史編 くろしお出版

早野慎吾（1996）『首都圏の言語生態―関東』おうふう

三井はるみ（2014）「非標準形からみた東京首都圏若年層の言語の地域差」『国立国語研究所共同研究報告13-02　首都圏の言語の実態と動向に関する研究 成果報告書』三井はるみ編 国立国語研究所

森田良行（1990）『日本語学と日本語教育』凡人社

和田利政、金田弘（2003）『国語要説　五訂版』厚得社

Naomi Geyer（2008）Interpersonal functions of style shift. IN Kimberly Jones, Tsuyoshi Ono（Eds）*Style Shifting in Japanese*. John BenjaminsPublishing Company

資料

『海街diary』１巻～７巻　小学館、吉田秋生（2007～）

注

ⅰ）作中、幸の「まだ30歳すぎてない」というセリフがある。

ⅱ）他の登場人物が、泰之は幸より明らかに年下に見えると評している描写がある。

ⅲ）場面13では、泰之がメールで「敬語」を使っていることに対し幸が不満に感じていることが描写されていた。

（ふくいけ・あきみ　外国語学部助教）